2014『支援』公開トークセッション

いのちをわけること、わけないこと、選ぶこと、選ばないこと

尊厳死法案と新型出生前診断問題を手掛かりに

玉井真理子
（信州大学）
×
大塚孝司
（バクバクの会）
×
堀田義太郎
（東京理科大学）

「本人の意思」に基づいた、治療の差し控えに関する基準を法律として設けようとする尊厳死法案の立法への動きは、ここ何年間か繰り返し登場し、それを巡って賛成、反対の立場からの議論がなされてきています。

また、昨年から、より簡易にできる出生前診断の技術が臨床現場で研究という形で導入され、その正しい理解や利用・普及の是非をめぐり議論がなされてきています。

これらの議論で問われていることは、「いのち」を何らかの基準で「わけること」についてであり、そのわけることを、生きる／生きない（生かせない）という決定に接続していくということをめぐる問題です。

今回のセッションでは、こうした具体的な動きを背景として置きつつ、よりよい決定のあり方とか、わけることの是非を問うという問題設定だけでは見えなくなってしまうような経験や課題を考えていこうと思います。

たとえば、「選択をすること」とはそもそも一体どういうことなのか？この問題は、そうした「選択」の問題なのだろうか？

また、「わけること」に抗するとして、しかし、社会の中に強く存在する「わける」という試みやまなざしとどう向き合って来たのか、行くのか。

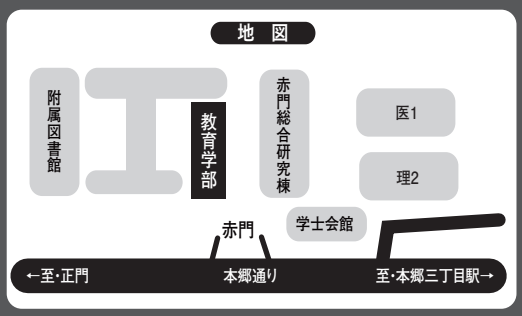
当事者・家族として、臨床での実践者として、研究者として、とそれぞれの立場で考えてきた方たちのお話と会場を交えたディスカッションから考えていきたいと思っています。

［司　会］井口高志（奈良女子大学、「支援」編集委員）、土屋葉（愛知大学、「支援」編集委員）

日時 8月31日（日）　午後1時～
（受付開始12時30分）

会場 東京大学本郷キャンパス
教育学部棟　第一会議室
東京都文京区本郷7-3-1

参加費 無料　　**主催** 「支援」編集委員会



問い合わせ　「支援」編集委員会　03-3226-1203　（生活書院内　新宿区三栄町17-2　木原ビル303）